

# 2025 Feb







9°C

Track  
OKAYAMA

Driver  
Hashiramoto/Nishida

## 後半ウェットへ

柱本翔夢伊(14)と西田光来(17)の2名がこのトレーニングに参加しました。曇り空でしたがドライコンディションの中、走行がスタートしました。

1セッション目は西田が走行します。冷えた路面とタイヤの中、慎重にペースを上げていきました。今の西田に必要なのは経験値を増やすことにあるため、とにかくアクシデントなく走行マイルージを増やすことが求められました。途中赤旗がありピットイン時に自らの走りを見直して再度コースインしていきました。ペースは確実に上がっては来たものの、まだコース幅を目一杯使い切れておらず2回目の走行で修正を狙います。

2セッション目は柱本がドライブ。60分間のセッションが始まりました。セッション前半でタイヤも自らの身体も温め、後半にベストな走りができるかがテーマでした。柱本はミスが少なく安定した走りができるドライバーですが、同時にグリップの限界内でしか走らせていないのも事実のため、もうワンランク上の次元で走れるようにするのが今年の目標です。後半、ペースは上がってきましたが、それでも西田のタイムにはわずかに及ばず課題がしっかり見えた走行となりました。

3セッション目は西田にドライバーチェンジ。しかしこのタイミングで雪が降り始め路面はウェットコンディションとなり、ウェットタイヤに履き替えてコースインしていきました。路面が濡れたことによりドライコンディションで試したかったことができず、内容を変更してウェット時の慣熟走行に専念することにしました。

2名とも大きなアクシデントなく走り切り、この日のプログラムを終えました。







**Track**  
OKAYAMA

**Driver**  
Hashiramoto/Mirai Nishida

## 極寒の中での走行

柱本翔夢伊(14)と西田光来(17)の2名がこのトレーニングに参加しました。早朝から雪が降り積もっており、朝のセッションはキャンセルとなりました。

1セッション目は西田が乗り込みました。雪は溶けたものの路面はウェットコンディションのため、レインタイヤを装着してコースインしていきました。自らの課題であった“コース幅を使った走り”の改善に集中するべくタイムよりもラインどりを意識した走行を行いました。何度かコントロールを失いかけるもコース上に留め無事に走り切りました。

2セッション目は柱本が走行します。雪は止み日差しが射し始め一気に路面は乾きドライコンディションへ回復しました。スリックタイヤへ交換しコースイン。まずはタイヤを温め、本来のグリップ力を得られるようにしていきます。順調に走り続け、まずまずのタイムを記録しました。しかしハイスピードコーナーでのスピードがわずかに劣っているため2回目の走行で修正を狙います。

3セッション目は西田にチェンジ。雪がチラつく天候でしたが路面はドライコンディションでした。コース幅を使った走りができるかが、このセッションの大きなテーマでした。しかしどうしても右コーナーでの進入時に早めにイン側へ寄ってしまう癖が出てしまい、最後まで修正できないままセッションを終えてしまいました。

4セッション目は柱本が最後の走行となりました。しかし直前に大雪が降りはじめ、路面はウェットコンディションとなってしまう、試したかった内容ができずに走行終了となりました。







11℃

Track  
OKAYAMA

Driver  
Y.Onohara/Kitamura

## それぞれ見えた新たな課題

1期生の小野原悠(15)と4期生の北村有志(12)の2名がこのトレーニングに参加しました。前日とは打って変わり晴れ間が広がる暖かい中での走行日となりました。

1セッション目は小野原が走行します。前回課題として見えた“素早くピークへ持っていくこと”をテーマに走り出しました。しかし朝の冷えた路面でタイヤが発熱しにくく滑りやすい状況の中で身体も固くなってしまい、本来の走りができずに30分の走行が終わってしまいました。

2セッション目は北村が乗り込みます。小野原とは対照的に走り始めからペースは良くセッション中盤では早くも小野原のタイムを上回るほどの走りを見せていました。まだまだ詰められる余力のある走りではあったものの、2回目の走行に向けての課題を見つけることができました。

3セッション目は小野原が走行します。先ほどは慎重過ぎる走りになっていたため、この走行では“攻めた走り”ができるかが問われます。数周走ったところで早くも1回目のタイムを更新していきましました。そして後半にはスクールカーの記録タイムに迫るタイムを記録し、本来持っているポテンシャルを発揮することができました。

4セッション目は北村が走ります。直前に小野原が好タイムを記録したことで、北村にも、ややプレッシャーが掛かっているように見えました。セッション中盤には自己ベストタイのタイムを記録し順調に見えましたが、後半からシフトミスを繰り返すなど歯車がかみ合わなくなり一気にペースダウン。悔しい表情でマシンを降りました。





# DRIVERS PERFORMANCE

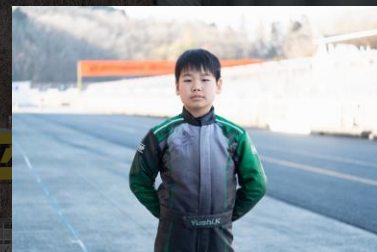
## Yu - ONOHARA (15)

2回目の走行で素晴らしい走りを見せた小野原。今回記録したラップタイムは、現在レースで活躍しているOBたちと同等のタイムでした。しかしピークへ持っていくまでの時間が掛かりすぎているため、限られた時間の中でポテンシャルを発揮できるようにしてもらいたいです。



## Yushi - KITAMURA (12)

明らかな課題が見えた北村。1回目の走行では小野原を上回るペースで走行していたものの、2回目の途中から集中力を失い、一気にペースダウンしてしまいました。何かに意識がいった途端に乱れる傾向があるため、集中力の幅を広くできるようになってもらいたいです。



## Kamui - HASHIRAMOTO (14)

冷えた路面コンディションの中でも、スムーズにマシンをコントロールできていた柱本。しかしもう一段階上を目指すためには、体験したことのないスピードでトライする必要があります。限界ギリギリの領域でのコントロールを目指してほしいです。



## Mirai - NISHIDA (17)

現メンバーで最もフォーミュラの経験値が少ない西田。その経験の差は明らかですが、目先の課題を確実にクリアしていくことが重要です。来月にはデビュー戦を控えているため、誰よりも努力して必ず差を縮めてもらいたいです。





## 【トレーニングを終えて】

今年も極寒の岡山でのトレーニングが終了しました。

夏場も使用するオールシーズンタイヤをこの寒い時期に温める作業は想像以上に難しく、本来のグリップ力を得られるまでには相当な時間とスピードが必要になります。

この時期にしか学べないことなのでしっかり習得してもらいたいです。

来月は岡山国際サーキットで西田のデビュー戦が控えています。

Junior Drive講師 白石勇樹







Junior Drive  
Shiraishi Racing School

SPORTS KART



舞洲スポーツアイランド



GARAGE38  
Luce ed ombra

FTK corporation



PAINT BY  
O·N·O.inc

III River inc.



Junior Drive  
Shiraishi Racing School

POTENZA BRIDGESTONE

GR Toyota Gazoo Racing

GR Toyota Gazoo Racing

GR Toyota Gazoo Racing

GR Toyota Gazoo Racing

GR Toyota Gazoo Racing

PIRELLA

DUNLOP